全曹青、発信せよ。

委員会、只今活動中

基幹事業委員会

基幹事業委員会において2年間にわたる活動の目標としたのは、①委員全員で講師を務めて、基礎研修会と発展研修会を成功させることと②“いのちの声に耳を澄ます”実践の場である電話相談窓口を基幹事業委員会で開設し運営すること、の2点でした。

1 研修会について

平成21年12月の四国管区研修会から翌年9月の京都での発展研修会まで、各管区理事の皆様をはじめ全国の会員諸師の協力を得ることによって、全9管区での基礎研修会と2回の発展研修会を開催することができました。全ての研修会で私たちの予想を上回る参加者数がありました。参加者のモチベーションは極めて高く、多くの方から事業に対する賛意が感じられました。

目標であった委員全員による研修会講師は、極めてうまくいったのではないかと思います。参加者が研修進行に協力的だったことも勿論ですが、各委員が研修会ごとに時間配分から発言内容に至るまで綿密に準備と打ち合わせを行ない、さらに積極的に協力しあったことが成功要因だと思います。

2 電話相談窓口『観世ふおん』について

平成21年11月1日の開設から平成23年3月27日までの延べ74日間で100件の着信がある。家庭や地域で孤立しがちな相談者や、誰に話せばいいのかわからず困っている相談者からの着信があった。相談受理記録から相談員による丁寧な傾聴が伺えるが、相談者からも好反応を得ている。実際、多くの相談者がリピーターとなっており、相談のたびに前回の相談の御礼を述べてくれている方もある。

ここでの目標については、概ね達成できてはいるがまだ十分とはいえない。電話相談における傾聴は前述の通り問題なしだが、諸々の行事や通夜等の檀務で相談員側が電話受付開始定刻の22時に遅れてしまったケースが約1割あったということは課題に挙げられる。幸い、相談用2回線共に遅刻ということはないのだが、掛けたが繋がらなかったという相談者の失望は大きいのではないかと想像できる。

わずか2年間の活動でこの事業を総括するのは難しいと思いますが、敢えて総括するならば、18期全曹青の思いである“いのちの声に耳を澄ます”ことを、委員が研修会を通じて会員諸師に伝えられた点と、『観世ふおん』電話相談窓口を開設し、継続可能な運営体系を整備した上で実践できたという点で、青年僧による社会貢献の一形態を示せたのではないかとこのことを挙げたいと思います。